

# AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

Otology Japan (2006.09) 16巻4号:420.

「小児急性中耳炎診療ガイドライン」の使用経験

林達哉, 大高隆輝, 安部裕介, 今田正信, 野中聡, 原湊保  
明

## 「小児急性中耳炎診療ガイドライン」の使用経験

林 達哉、大高隆輝、安部裕介、今田正信、野中 聡、原渕保明

はじめに 日本耳科学会、耳鼻咽喉科感染症研究会、および小児耳鼻咽喉科学会が中心となり作成された「小児急性中耳炎診療ガイドライン」が、間もなく正式リリースされる。このガイドラインは、患者の年齢、臨床症状および鼓膜所見により中耳炎の重症度を決定し、この重症度に基づいた治療を行うことにより、より適切な治療の指針を示すものである。適切な治療は不必要な抗菌薬の使用を抑制し、更なる耐性菌の拡大を防ぐことを目的としている。また、このガイドラインは耳鼻咽喉科医が作成したことから、従来国内外で発表された小児急性中耳炎に対するガイドラインと比較して、「1. 重症度の判定のため詳細な鼓膜所見を必要とする。」、「2. 治療法の一部に外科的処置として鼓膜切開が組み込まれている。」といった特徴を持つ。

我々は、2006年3月18日版の「小児急性中耳炎診療ガイドライン（案）」に基づいた治療を行い、本ガイドラインの妥当性と問題点を検討したので報告する。

対象と方法 旭川医大耳鼻咽喉科と関連病院に来院した小児急性中耳炎患者のうち、反復性中耳炎などガイドラインに除外対象として明記されている症例を除外し、ガイドラインに基づいてスコアリングを行った。スコアリング結果から重症度を判定し、ガイドラインに基づいた治療を行った。ガイドラインから逸脱する場合には理由を明らかとし、これを検討した。

結果 2006年5月下旬から9月下旬までに、北海道内数病院において調査を行った結果を集計し報告する。